

公益社団法人日本天文学会理事会議事録

日 時：2014年3月19日（水） 19:00 - 20:10

場 所：国際基督教大学 理学館 2F N203 号室

出席理事：櫻井、奥村、山田、本原、熊谷、松尾、茂山、青木、山岡、宮田、石丸、滝沢、林田（以上13名）

出席監事：郷田（以上1名）

欠席理事：中村（以上1名）

欠席監事：尾中（以上1名）

また、須佐元氏、西野事務長、黒岩事務員が出席した。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち、出席理事が13名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：櫻井隆

署名人：櫻井隆、奥村幸子、山田亨、郷田直輝

I-2 前回議事録

資料2に基づき、前回（2013年12月8日）の理事会議事録が報告・確認された。

II. 報告

II-1 移籍・退会報告（資料3、本原）

2013年11月23日より2014年3月12日までの間の移籍・退会者数が報告された。正会員入会20名、準会員入会4名、準会員から正会員への移籍会員数は4名、正会員から準会員への移籍はなし、正会員退会1名、準会員退会5名であった。

II-2 事業担当理事の近況

1. 月報（青木）

記事が枯渇気味である。積極的な投稿を期待している。

2. 庶務（本原）

中村理事が急病のため本原理事が報告を行った。事務処理の簡略化、経費削減を目指して、年会費口座自動引き落としキャンペーンを行ったところ、420件の申し込みがあり、自動振替を行う会員は1300名を超えた。また、ネットワーク委員会で学会ウェブページの更新作業を進めている。サイエンスノードに依頼する予定である。CMSは基本的に用いず、スタイルファイル+Javascriptで組む方針。内閣府への事業計画書と予算書の登録が完了した。

3. 会計（熊谷）

今年度決算と監査の準備を進めている。年会の決算をできるだけ早く出してほしい。

4. 天文教育（山岡）

大学教育の質保証の検討を進めている。地学オリンピックが2016年に日本で開催されるので、本年会3日目に説明会がある。杉並区科学館閉鎖の見直しを求める要望書を会長が中心に準備している。講師紹介は年間で9件問い合わせがあり、6件を紹介した。ジュニアセッションは3,4日目に開催されるので、ぜひ出席してほしい。

5. PASJ（茂山）

66号1巻が先週刊行された。編集部の正木氏が今月末で退職。後任は雇用しない予定。太陽系特集号は6篇で刊行される。ひので特集号は締め切り、レビュー中。すばる特集号を2015年5月号で出すことが決定された。

II-3 開催中の年会に関する報告及び今後の年会の進捗状況報告

1. 国際基督教大学（石丸、山田、宮田）

スタッフが一人であるので、49名のアルバイトを採用した。これは通常より多いためコストが高んだが、会場費が免除されたため、バランスがとれている。懇親会についても会場費はかかっていない。外国人発表者からポスタープリントアウトの要望があったので学内の購買でのサービスを紹介した。3月18日の記者発表は7社、報道は日経新聞とアストロアーツのweb掲載を確認している。また、公開講演会の講師謝金については会員についても謝金を出すことにしたいという提案がなされた。これに対し、やはり天文学普及のための協力であるから、謝金というのはそぐわないのではないかと、現在も必要経費は支出している、などの議論があった。これらの議論の後、次回以降もケースバイケースで判断することとした。

791件の講演登録があり、キャンセルが6件、初日終了時点で583名が受付済み、講演なしが218名。大きな問題は起きていない。

2. 山形大（滝沢）

公開講演会の後援を山形大学、山形市、山形県に申請中。

3. 大阪大（林田）

保育室を確保し、業者と相談して進めている。ポスター会場は階段のみの二階となったので、車椅子での昇降を補助する学生を配置する。公開講演会は大阪市立科学館プラネタリウムで開催し、2講演+プラネタリウム番組を予定している。

II-4 事務所の近況報告（西野）

アルバイトを雇って、会費引き落とし申し込みの処理を行った。

II-5 年会運営の改善の検討状況（資料 5，宮田）

前代会議員総会で、年会の申し込みを遅らせられないかという希望が出されたので、検討を行った。申込時期をリミットしているのは、会場の最終決定のスケジュールであることが明らかになった。現状のままでは、申し込み時期の前倒しは難しい。遅らせた場合には開催地に大きな負担をかけ、コストも大幅に上がり、参加者の出張手続きにも影響を与える（航空券の価格の上昇、海外からの参加者への不便、とくに渡航許可の申請やビザの発給）。

また、年会のプログラムを月報に掲載しない代わりにまとめた PDF を用意することを検討している。

II-6 その他

1. 会長選挙について（本原）

次期会長候補者選挙を 2014 年度中に行う必要があり、日程の調整を始めている。また、各理事の後任候補者の選定をそろそろ始めてほしい。

2. 委員会の任期について（本原）

現理事会の任期は 2015 年 6 月頃に開催される予定の代議員総会までであるが、各種委員会の任期については明示的に決められていない。これをどのようにするか決める必要がある。今後実務理事で検討を進める。

III. 議題

III-1 年会開催地幹事の承認（本原）

甲南大学の須佐元氏が 2015 年秋季年会の開催地幹事に任命する提案が承認された。

III-2 新規加入者の承認（本原、資料 3）

正会員 20 名と準会員 4 名の入会が全会一致で承認された。

III-3 Oxford University Press(OUP)と PASJ 出版についての覚書締結の承認（配布資料、茂山）

契約書に記載されていない、以下の 3 点について次のように覚書を締結することが提案された。

1. 別冊の特集号は入稿開始の 10 週間前に OUP へ通知すること、最低 250 部を増刷注文すること、増刷がない場合には相当する額(おおよそ 85 万円)は学会が負担すること。
2. OUP は予算案を 9 月末に提出すること。
3. 電子版への永続アクセスを年間購読料の 7 割支払うことで保証する。

これに対し、別冊特集号の 250 部増刷注文は仕方ないだろう、電子版への永続アクセス権についてはどのような義務が発生するかよく考えないといけない、などの意見が出された。その結果、永続アクセスの項については継続して調査を進め、

それを除いた第1, 2項に限って覚書を締結することを承認した。

III-4 シリーズ現代の天文学英語版出版事業の承認 (茂山)

かねてより岡村元編集委員長から提案されていた「シリーズ現代の天文学」の英語版出版について、Springer Japan 編集部にお問い合わせしたところ、非常に前向きな回答があった。これを受けて、この出版を日本天文学会の事業として承認して進める提案がなされた。具体的には、一巻あたり一名がすべての翻訳作業を行い、ロイヤリティ (一巻あたり20万円程度) もこの翻訳責任者に配分する。英語校正をどのように行うかが問題である。電子版となるので、ページ制限はない。印刷版についてはprint on demandで対応する。著作権はSpringerが保持する。日本語版出版元の日本評論社にこの件を伝え、英語版をSpringerから出版しても問題ないことの確認をとった。

これに対し、ワーキンググループを作りもう少し詳細に検討する必要があるだろう、本質的には日本の天文学を世界にアピールする良い機会であろう、などの意見が出された。ワーキンググループを作り継続して検討することとした。

[資料リスト]

資料1 理事会出欠表

資料2 前回理事会 (2013/12/8) 議事録

資料3 新規入退会・移籍者などの報告

資料4 「シリーズ現代の天文学」英語版出版の可能性について

資料5 日本天文学会年会講演申し込み時期変更に関するメモ

配布資料 Oxford University Press との覚書について

2014年 3月19日

会 長：櫻井 隆 印

副会長：奥村 幸子 印

副会長：山田 亨 印

監 事：郷田 直輝 印